

## 贖罪日と大祭司の務め

レビ記 16 : 1~34 (贖罪日)

アロンの二人の息子 (→ナダブとアビフ、レビ記 10 : 1) が主の御前に近づいて死を招いた事件の直後、**主はモーセに仰せになった。**

2 主はモーセに言われた。あなたの兄アロンに告げなさい。決められた時以外に、垂れ幕の奥の至聖所に入り、契約の箱の上にある贖いの座 (→出エジプト記 25 : 17 次に、贖いの座を純金で作みなさい。寸法は縦二・五アンマ、横一・五アンマとする) に近づいて、死を招かないように。**わたしは贖いの座の上に、雲のうちに現れる** (→shekinah シェキナ/シェキーナ) からである。

3 アロンが至聖所に入るときは次のようにしなさい。

まず、(アロン自身の) 贖罪の献げ物として ①**若い雄牛一頭** (→16 : 14)、(民の贖罪のための) 焼き尽くす献げ物として ②**雄羊一匹** (→16 : 15) を用意する。

4 彼は (通常とは違い) 聖別した (白く質素な) 亜麻布の長い服 を着け、その下に 亜麻布のズボン をはいて肌を隠し、亜麻布の飾り帯 を締め、頭に 亜麻布のターバン を巻く。これらは聖なる衣服であり、彼は水で体を洗ってこれを着る。

5 次に、イスラエルの人々の共同体から贖罪の献げ物として ①**雄山羊二匹** (→①一匹の雄山羊は屠られ、②他の一匹は荒れ野に住むと信じられていたアザゼルのもとに遣わされる)、焼き尽くす献げ物として ②**雄羊一匹** を受け取る。

→アザゼル：原義は不明。罪を背負って去る者 (七十人訳聖書)、荒涼とした岩場 (ユダヤ教)

6 アロンは、自分の贖罪の献げ物のために雄牛 を引いて来て、自分と一族のために 贖いの儀式 を行う。

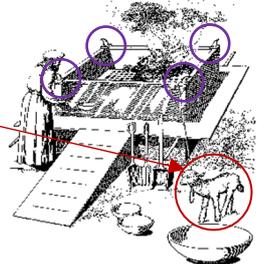
7 次いで、雄山羊二匹 を受け取り、臨在の幕屋の入り口の主の御前に引いて来る。

8 アロンは ①**二匹の雄山羊** についてくじを引き、①一匹を主のもの、②他の一匹をアザゼルのものと決める。

9 アロンはくじで主のものに決まった ①**雄山羊** を贖罪の献げ物に用いる。

10 くじでアザゼルのものに決まった ①**雄山羊** は、生きてまま主の御前に留めておき、贖いの儀式 を行い、荒れ野の アザゼルのもとへ追いやるためのものとする。

11 アロンは自分の贖罪の献げ物のための ①**雄牛** を引いて来て、自分と一族のために 贖いの儀式 を行うため、自分の贖罪の献げ物の雄牛 を屠る。



12 次に、主の御前にある 祭壇 (→常に火を絶やさないう焼き尽くす献げ物の祭壇で、香壇ではない) から炭火を取って 香炉 に満たし、細かい香草の香 を両手にいっぱい携えて 垂れ幕の奥 (の至聖所) に入り、13 主の御前で香を火にくべ、香の煙 を雲のごとく漂わせ、掟の箱の上の贖いの座 を覆わせる。死を招かぬためである (→香の煙は、贖いの座における神の臨在を覆い、神の前に近づく大祭司を保護した)。



14 次いで (→一度外に出て)、①**雄牛の血** (→血は命を表し、清める力がある) を (鉢に) 取って (至聖所に入り)、指で 贖いの座の東の面 に振りまき、更に血の一部を指で、贖いの座の前方 に七度振りまく。

15 次に (→もう一度外に出て)、民の (罪を取り除く) 贖罪の献げ物のために ①**雄山羊** を屠り、その 血 を垂れ幕の奥 (の至聖所) に携え (て行き)、さき (→先ほど) の ①**雄牛の血** の場合と同じように、贖いの座の上と、(贖いの座の) 前方 に振りまく。

16 こうして彼は、イスラエルの人々のすべての罪による汚れと背きのゆえに、至聖所のために贖いの儀式 を行う。彼 (→大祭司、アロン) は、人々のただ中にとどまり、さまざまの汚れにさらされている臨在の幕屋のためにも同じようにする (→聖書協会共同訳：また彼らの汚れの中で彼らと共に住んでおられる方の会見の幕屋のためにも同じようにする→16 : 18、19)。

17 彼 (→大祭司、アロン) が 至聖所 に入り 贖いの儀式 を行って、出て来るまでは、だれも 臨在の幕屋 に入ってはならない (→通常の贖いの儀式では、祭司たちは幕屋の中で大祭司を助けるが、**大贖罪日** には祭司たちは幕屋に入ることは出来ない)。

彼（→大祭司、アロン）は、①自分と一族のために、また②イスラエルの全会衆のために贖いの儀式を済ますと、18 主の御前にある祭壇（→常に火を絶やさない焼き尽くす献げ物の祭壇で、香壇ではない）に出て来て、そのために贖いの儀式を行う。

彼は①雄牛の血と①②雄山羊の血の一部を取って祭壇の四隅の角（前頁○）に塗り、19 血の一部を指で七度祭壇に振りまいて、イスラエルの人々の汚れからそれ（→祭壇）を清め聖別する。

20 こうして、至聖所、臨在の幕屋および祭壇のために贖いの儀式を済ますと、（くじを引き、アザゼルのもものと決め）生かしておいた雄山羊を引いて来させ、21 アロンはこの生きていた雄山羊の頭に両手を置いて、イスラエルの人々のすべての罪責と背きと罪とを告白し、これらすべてを雄山羊の頭に移し、人に引かせて荒れ野の奥へ追いやる。

22 雄山羊は彼らのすべての罪責を負って無人の地に行く。雄山羊は荒れ野に追いやられる（→スケープ・ゴート scapegoat）。

23 アロンは臨在の幕屋に（再び）戻り、至聖所に入るときに身につけていた亜麻布の衣服を脱いでそこに置き（→神の臨在に近づき、聖性を強く帯びているため、幕屋の中に置かれる）、24 聖域で身を洗い（→聖性を帯びたままでは日常の場所に戻れない。幕屋の庭で大祭司が裸になったとは考えられないので、衝立のようなものがあつたか、ズボンをはいたまま身体を洗ったと思われる）、自分の衣服に着替え、外に出て自分の焼き尽くす献げ物（→若い雄牛一頭）と民の焼き尽くす献げ物（→雄羊一匹）をささげ、自分と民のために贖いの儀式を行う。

25 また、贖罪の献げ物の脂肪を祭壇で燃やして煙にする。26 アザゼルのための①②雄山羊を引いて行った者は、衣服を洗い、身を洗って後、初めて宿営に戻ることができる。

27 至聖所のための贖いの儀式を行うために、その血を携え入れられた贖罪の献げ物（16：14、15）の①雄牛と①②雄山羊は、宿営の外に運び出し、皮、肉、および胃の中身を焼却する。

28 この仕事に従事した人は衣服を洗い、身を洗って後、初めて宿営に戻ることができる。

29 以下は、あなたたちの守るべき不変の定めである。第七の月の十日にはあなたたちは苦行（→断食等、サムエル記下 12：16～20）をする。何の仕事もしてはならない。土地に生まれた者も、あなたたちのもとに寄留している者も同様である。

30 なぜなら、この日にあなたたちを清めるために贖いの儀式が行われ、あなたたちのすべての罪責が主の御前に清められるからである。31 これは、あなたたちにとって最も厳かな安息日である。あなたたちは苦行をする。これは不変の定めである。32 贖いの儀式は、聖別の油を注がれ、父の跡を継いで正規の祭司職に任じられた祭司が行うべきである。彼は聖別した亜麻布の衣服を着け、33 至聖所、臨在の幕屋および祭壇を清め、祭司たちと民の全会衆のために贖いの儀式を行う。

34 これはあなたたちの不変の定めである。

年に一度（→大贖罪日=ティシュリ[第七の月]の10日）、イスラエルの人々のためにそのすべての罪の贖いの儀式を行うためである。モーセは主のお命じになったとおりに行った（or アロンは主がモーセに命じたとおりに行った）。

34 これはあなたたちの不変の定めである。

年に一度（→大贖罪日=ティシュリ[第七の月]の10日）、イスラエルの人々のためにそのすべての罪の贖いの儀式を行うためである。モーセは主のお命じになったとおりに行った（or アロンは主がモーセに命じたとおりに行った）。

【参考】 暦

太陽暦・ヘブライ暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammūz	ア ブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルハ Shwan Marcheswan	キスレーヴ Kislev, Kislev	テベツ T'ebheth	シユバツ Sabhāt	アダ Adhār, Adar	
バビロニアの月名 ():カナン の古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	ア ブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ハシユワン (ブル)	キスレウ	テバト	シエバト	アダ Adar	
主な行事	←←← 七週間 →→→		●七週祭(シャブオット)→詩編68:2~4を朗読    五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ★ユダヤの三大祭:①過越祭、②七週祭、③仮庵祭					1:新年 新年祭(ロシヨ・ハシヤブ)※1 10:大贖罪日(ヨム・キップール)※2 15~21:●仮庵祭(スコツト)		25:宮清めの祭(光の祭り、ハヌカ) (25日~8日間)			
	14~21 ●過越祭(ベサハ)=ニサン月の14~21日		①過越祭(過越しの祭り):ニサン月の14日の日没~15日の日没 ②除酵祭(種を入れないパンの祭り):15日の日没~21日の日没					※1:Rash Hashanah(ヘブライ語) (頭)(年)		※2:Yom Kippur(ヘブライ語) 大いなる贖罪の日 →レビ16:29、23:27、25:9、民数記29:7			

【参考】聖書にある「香炉」

レ ビ 記	10:1 アロンの子のナダブとアピフはそれぞれ香炉を取って炭火を入れ、その上に香をたいて主の御前にささげたが、それは、主の命じられたものではない、規定に反した炭火であった。
レ ビ 記	16:12 次に、主の御前にある祭壇から炭火を取って香炉に満たし、細かい香草の香を両手にいっぱい携えて垂れ幕の奥に入り、
民 数 記	16:6 次のようにしなさい。コラとその仲間はずべて香炉を用意し、
民 数 記	16:17 あなたたちは、おのおの香炉を取り、それに香を載せ、主の御前に持って来なさい。おのおの一つずつ、二百五十の香炉を持ち、あなたもアロンもそれぞれ自分の香炉を持って来なさい。」
民 数 記	16:18 彼らはおのおの香炉を取り、それに炭火を入れ、香を載せ、モーセとアロンと共に臨在の幕屋の入り口に立った。
民 数 記	17:2 「祭司アロンの子エルアザルに告げ、焼け跡から香炉を取り出し、炭火は遠くにまき散らすように言いなさい。香炉は既に聖なるものとなっている。
民 数 記	17:3 命を落とした罪人たちの香炉を打ち延ばして板金にし、祭壇の覆いを作りなさい。それらは、主の御前にささげられ、聖なるものとされているからである。これは、イスラエルの人々に対する警告のしるしとなるであろう。」
民 数 記	17:4 祭司エルアザルは、焼き殺された人々がささげた青銅の香炉を集め、打ち延ばして板金にし祭壇の覆いを作った。
民 数 記	17:11 モーセはアロンに言った。「香炉を取り、それに祭壇の火を入れ、香を載せ、急いで共同体のもとに行って、彼らのために罪を贖う儀式を行いなさい。主の御前から怒りが出て、もう疫病が始まっている。」
歴 代 誌 下	26:19 香をたこうとして香炉を手にしていたウジヤは怒り始めたが、祭司たちに怒りをぶつけている間に重い皮膚病がその額に現れた。それは主の神殿の中にいた祭司たちの目の前、香の祭壇の前の出来事だった。
エゼキエル書	8:11 その前に、イスラエルの長老七十人が、シャファンの子ヤアザンヤを中心にして立っていた。彼らは、それぞれ香炉を手にしており、かぐわしい煙が立ち昇っていた。
ヨハネの黙示録	8:3 また、別の天使が来て、手に金の香炉を持って祭壇のそばに立つと、この天使に多くの香が渡された。すべての聖なる者たちの祈りに添えて、玉座の前にある金の祭壇に献げるためである。
ヨハネの黙示録	8:5 それから、天使が香炉を取り、それに祭壇の火を満たして地上へ投げつけると、雷、さまざまな音、稲妻、地震が起こった。

